

第3回博報「ことばと教育」研究助成

「研究助成部門」「実践研究部門」で助成対象者決定

財団法人博報児童教育振興会（理事長 近藤道生）は、第3回博報「ことばと教育」研究助成の助成対象者を決定し、1月25日付で発表しました。

- ・本事業では今年度、研究成果を、より児童教育の実践に還元しやすい「実践研究部門」を新設し、研究助成対象者を教諭まで広げました。
- ・選考は、すべての研究において児童教育実践への応用的価値を重要視しました。
- ・厳正な選考の結果、応募総数91件のうち、研究助成部門10件、実践研究部門7件、計17件が、第3回博報「ことばと教育」研究助成の対象者として選出されました。（別紙参照）
- ・研究は2008年4月～2009年3月の1年間行われ、研究終了後、提出された研究成果報告書をもとに、審査、選考し、特に優秀な研究を顕彰します。（若干名に対し、副賞金30万円を贈呈）

当財団は1970年児童教育を振興する目的で文部省（当時）認可の財団法人として設立されました。以来、「ことば」「文化」「教育」の領域を中心に、小中学生の教育実践に優れた実績を上げられた団体・個人に「博報賞」を贈呈して顕彰し、児童の豊かな人間性育成を支援してまいりました。

財団設立35周年にあたります2005年度より、教育の基盤となる「ことばと教育」の領域における自由で独創的な研究に対する助成活動を行っています。

<この件に関するお問合せ>

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-22

財団法人 博報児童教育振興会

TEL 03(3233)6788

FAX 03(3233)6325

Eメール hakuho.foundation@hakuho.co.jp

ホームページ <http://www.hakuho.co.jp/foundation/>

第3回 博報「ことばと教育」研究助成 対象者一覧

【研究助成部門】

研究タイトル	助成対象者・代表者
中等・高等教育をつなぐ日本語リテラシー教育に関する研究	秋山 英治 * (愛媛大学:非常勤講師)
意見を述べる際の配慮方法について —新聞・テレビ・ラジオのメディアを比較して—	小野 正樹 * (筑波大学:講師)
外来語の基本語化の研究 —20世紀後半の新聞コーパスをもとに—	金 愛蘭 (国立国語研究所:特別奨励研究員)
ことばの読みに困難を抱えた児童に対する早期療育法の検討	久保(川合) 南海子 * (京都大学 ころの未来研究センター:助教授)
アントレプレナーシップ教育で育まれる「ことばの力」の検証	高橋 薫 * (お茶の水女子大学大学院:大学院生)
義務教育段階の児童生徒の読み遅れの実態とつまづきの解明	田中 耕司 (筑波大学大学院:大学院生)
日本語非母語話者の第二言語習得過程 —統語的・語用的見地から—	土井 香乙里 (早稲田大学 人間科学学術院:助手)
多文化共生を目指した特殊目的の日本語教育支援への提言	中野 千野 * (早稲田大学大学院:大学院生)
日本語会話における「意識の流れ」の解明にむけて	横森 大輔 * (京都大学大学院:大学院生)
小学校における言語意識教育のための教材研究と開発	吉村 雅仁 * (奈良教育大学:准教授)

【実践研究部門:テーマ研究の部】

<テーマ:総合的な学力向上のためのことばの教育> 理科授業における子どもの言語としての科学概念構築に関する研究	黒田 篤志 * (横浜市立井土ヶ谷小学校:主幹教諭)
<テーマ:社会生活に適應する力をつけることばの教育> 軽度発達障害がある児童・生徒へのイディオム学習ソフトの開発	西村 健一 * (香川大学 教育学部付属特別支援学校:教諭)
<テーマ:家庭生活の変化に対応することばと児童教育のあり方> 世代間交流型読み聞かせ:コミュニケーション能力向上プログラム	藤原 佳典 * (財)東京都高齢者研究・福祉振興財団 東京都老人総合研究所:研究副部長)

【実践研究部門:自由研究の部】

国語科授業における「読解力」を鍛える文学的な文章の授業展開の工夫	岡野 健 * (群馬県総合教育センター:主任指導主事)
ことばを思考に使う力の育成過程における「つぶやき」の分析	岸野 麻衣 * (福井大学:講師)
児童・保護者との信頼関係構築を目指す教師の「評語」のあり方	北原 剛 (長野市立城東小学校:教諭)
中等教育6年間における語彙発達の質的・量的分析と効果的授業開発	鈴木 一史 * (東京大学 教育学部附属中等教育学校:教諭)

<五十音順・*印はグループ研究代表者>